

## 習熟度別少人数指導の手引き



2020年4月  
名寄市立名寄南小学校

はじめに

### 習熟度別少人数指導とは

習熟度別少人数指導とは、各教科等の授業において、1つの学級を児童の習熟の状況に応じて2つのグループに分けたり、2つの学級を3つのグループに分けたりし、人数を減らして少人数で行う授業形態です。

1つのグループを少人数にすることで児童一人一人に対してきめ細かい指導を行い、指導の効果を高めることをねらいとして実施しています。

本校では、指導方法工夫改善や学校力向上に関する総合実践事業による加配教員、ことばときこの教室（通級指導）の教員等を効果的に活用し、習熟度別少人数の指導が実施しやすくなっています。

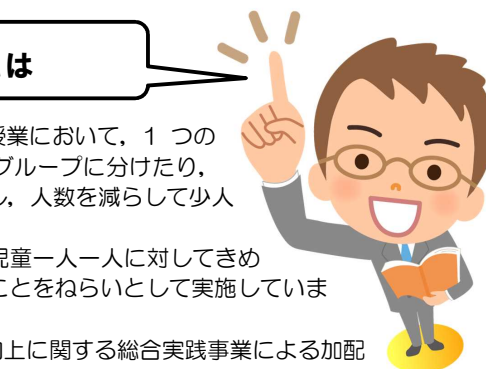
令和元年度の算数の習熟度別少人数指導の時間は、以下のようになっています。

学年	指導時数	実施に伴う授業時数
1年生	136時間	
2年生	175時間	
3年生	175時間	
4年生	175時間	
5年生	175時間	
6年生	175時間	

本校は、初任段階の先生方が多く、若手の教員も中心となって学校運営に参加している学校です。

初任段階の先生を含め、すべての先生方が、個に応じたきめ細かい指導を通して、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、児童の個性を生かし、確かな学力を育むための指導方法を身につけることが大切です。このことから、授業を担当するときに日頃の実践を振り返るとともに、指導者による指導の差が生まれないよう「習熟度別少人数指導の手引き」を効果的に活用してください。

なお、主に算数科の授業についての手引きですが、日常の他教科等の授業実践でも十分活用できるものになっていますので、いつでも手に取れる場所に保管していただくようお願いします。



## ★ 授業振り返りチェックシート

定期的に自分の授業を振り返りましょう

番号	チェック項目	チェック
①	チャイムと同時に授業が始まりチャイムと同時に授業を終わらせているか。45分間の学習過程を本時の目標に合わせてバランスよく構成しているか。	
②	授業では、児童の意見を取り入れた課題やまとめを構成しているか。	
③	学習の理解等につまずいている児童への手立てや早く問題が終わった児童への手立ては明確になっているか。	
④	指導内容や発達段階に応じた教材・教具を工夫しているか。	
⑤	授業の目標や評価を理解しているか。	
⑥	児童の積極的な発言がある中で、終始落ち着いた雰囲気の中で授業が進められているか。	
⑦	授業を管理職、主幹、教務主任、指導方法工夫改善や学年の先生等に自分から声をかけ、協力して構想しているか。	
⑧	全体の様子を俯瞰（ふかん）しつつ、個人の達成状況の把握に努めるなど、臨機応変に対応できる授業づくりをしているか。	
⑨	児童の学習状況に応じて、一単位時間の授業や単元の指導計画を改善（カリキュラム・マネジメント）しているか。	
⑩	すべての児童が「わかった」「できるようになった」「次の時間が楽しみだ」という思いをもって授業を終えているか。	

上記の10点は、授業を行う上でとても大切な視点です。教師には、これらの10点が当たり前にできるようになることが求められます。次のページからは、これらについて実践のヒントを紹介しますので、日々の実践に生かしてください。

**一人一人が確実に  
ステップアップできる  
指導を目指しましょう。**



①チャイムと同時に授業が始まりチャイムと同時に授業を終わらせているか。45分間の学習過程を本時の目標に合わせてバランスよく構成しているか。

### ○1時間の構成を理解しましょう

算数の1単位時間は、

問題 → 予想 → 課題 → 解決 → まとめ → 練習 → 振り返り

の7段階から構成されています。基本的にはこれらの全てを45分間で行います。しかし、発問や説明、指示等が不明確であり、学習活動に偏りがある場合、課題について考えが深まらなかったり、練習の時間がなくなったりしてしまいます。このため、毎時間の授業を振り返り、45分で目標が達成できたかを振り返りましょう。

指導過程の時間の目安

問題 予想 課題	解決	まとめ	練習	振り返り
10分～15分	(主に：個人→集団) 15分～20分	5分	10分	3分

児童一人一人に解決を促してもできない場合など、解決の場面(主に個人解決)に時間がかかる場合は、児童の解決の様子を見極めながら勇気をもって時間を区切ることも大切です。

最後まで進まないことがよくある場合は、時計を確認しながら授業を進める癖をつけましょう。チャイムが鳴ったから授業を終わらせるではありません。(チャイムと同時に5分休みが始まっているのです。)

たとえ研究授業であったとしても授業の終わりのあいさつが終わったのと同時にチャイムが鳴ると気持ちがいいですね。

【気をつけよう！】

最後まで進まなかったところを、「残りは宿題ね。」と、するのはやめましょう。自分の進行のミスを児童に押しつけているのと同じです。担任の先生は、家庭での学習時間を考えながら毎日宿題を出しています。

進度に影響が出そうな場合は、すぐに指導工夫担当が担任に相談しましょう。

②授業では、児童に意見を取り入れながら課題やまとめを構成しているか。

### ○子どもと共に課題やまとめを設定しましょう

1 2 / 1 0	①	②	③
④ さつまいもを、3.39kg ほりました。そのうち、2.63 kg 食べました。残りは何 kg でしょうか。	⑤ 0.1 をもとにして・・・ 3. 89→		
⑥ 式 3.89 - 2.63		⑦ 位ごとに考えて・・・ 3. 89→	
⑧ 小数のひき算の方法を考え、友達に説明しよう。			⑨

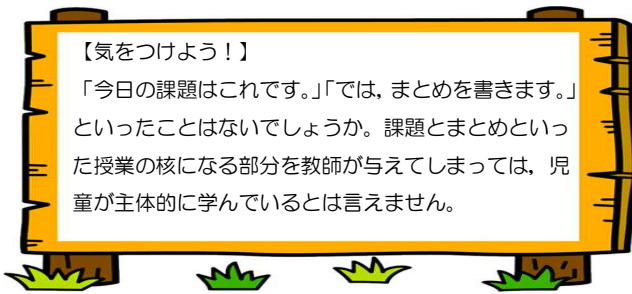
#### 問題から課題の設定まで

- T 答えは予想できますか？  
C 答えは1 kgぐらいかな。  
T 今までのひき算とのちがいは？  
C 小数があることです。でも、小数のひき算ってどうやるのかな。  
C 小数のたし算の時と同じようにできるかな？  
T では、それを課題にしましょうね。

#### 解決からまとめまで

- T みなさんがやったように、2通りの計算で小数のひき算をすることができましたね。では、今日のまとめはどうしたらよいですか。  
C たし算の時と同じように計算するとよい。  
C 0.01 をもとにするか、位ごとに考えるとよい。  
T ではそれを今日のまとめにしていいたいですか？（まとめを書く）

このような児童とのやり取りを通して課題やまとめをつくりまします。学年が上がるにつれて、「今日の課題は何にしますか。」と聞くことで、課題を設定することができますし、慣れてくると教師から聞かなくても、児童から「今日の課題は〇〇です。」と言うようになります。



③学習の理解等につまずいている児童の手立てや、早く問題が終わった児童への手立ては、明確になっているか。

### ○個に応じた手立てをしましょう

#### つまずいている児童への手立て

授業の前に「児童はどのようなことでつまずくのだろうか。」ということ想定しておきましょう。このことにより、児童の予期せぬ発言などによって教師が戸惑うことも少なくなります。また、つまずいている児童には、解決のための具体的なヒントを与えることができます。

1. 前の時間を振り返る  
(前の時間の考えを活用すると良いことに気づかせる。)
2. これまでの学習を振り返る  
(前の学年の同じ系統の学習でつまずきがないか確認する。)
3. 教科書やノートを見る  
(解決への手掛かりが書いてあるページを見る。)
4. ことばをかみ砕く  
(問題の意味がわかっていない場合がある。)

#### 早く終わった児童への手立て

早く問題を解き終えた児童が、おしゃべりや授業と関係ないことを始めてしまったりすることがあります。これらは、やることなく暇になってしまったことが原因です。そうならないための手立てを事前に準備しておく必要があります。

1. 集団解決で行う説明の準備をする  
(ノートに説明を書いておくのも良い。)
2. 他の方法を考える  
(数通り考え方がありそうな場合、他の方法で解いてみる。)
3. グループや近くで困っている児童のところへ行き、考え方のヒントを伝える  
(まめ先生、ミニ先生などというやり方もあります。学級の実態に合わせましょう。)
4. 黒板に答えを書く  
(計算問題等で行う「終わった人から書いていいよ。」などと言うとはりきって取り組みます。)

これらの手立てを使い分けながら、つまずいている児童は早く終わった子に「誰か教えてー！」と呼び掛けたり、早く終わった子どもは「困っている人いないかい？」と呼び掛けたりする雰囲気構築することで、活発に学び合う児童に成長するはず。また、つまずいている子が多い場合は、一度全員の手を止めて、全体に向けて説明する等、臨機応変な対応も大切です。

④授業内容や発達段階に応じた教材・教具を工夫しているか。

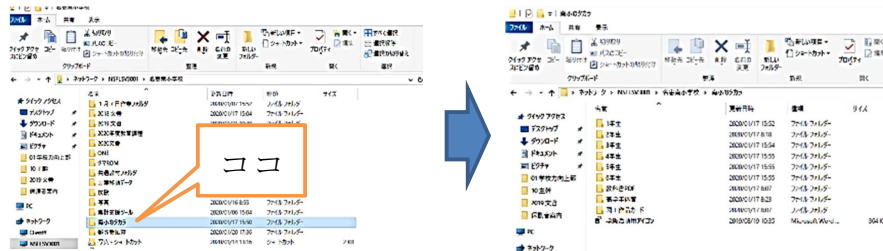
### ○効率よく授業を進めましょう

授業の基本は板書ですが、図や表、グラフなどは、テレビに写した方が効果的です。また、インターネットなどでフラッシュ教材がありますので、それらを活用するのも良いでしょう。特に、グラフや図形などでは有効です。また、南小学校には『南小のタカラ』というフォルダーがあります。一から作るのではなく、上手に活用しましょう。

図形などの単元では、画用紙や折り紙などの教材が必要な場合がありますので、単元が始まる前に、確認しておきましょう。

なお、図形や数量関係の単元は、指導工夫改善担当が作ってくれている場合があります。相談しに行くようにしましょう。

### 『南小のタカラ』

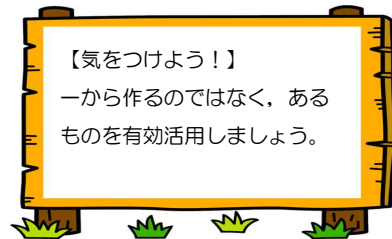


共有フォルダー（シンクライアント）の南小学校に入ると『南小のタカラ』というフォルダーがあります。

各学年に分かれています。

### 『フラッシュ教材』

インターネットで「フラッシュ 算数」で検索すると、様々な教材がありますので、ぜひ活用してみてください。教科書に準拠しているものもあります。（新教科書になっているので、必ず確認して使用しましょう。）



⑤授業のねらいや評価の項目は理解しているか。

### ○授業のねらいを確認しましょう

どの教科にも「評価の観点」があります。これらの観点に沿って単元を通してバランスよく育てていく必要があります。算数の場合は、以下のようになっています。

新学習指導要領
知識・技能
思考力・判断力・表現力等
主体的に学習に取り組む態度

例えば、「思考力・判断力・表現力等」を育てる授業は、どのようにして式を立てたかについてみんなで考えを出し合う授業になります。「知識・技能」を育てる時間では、計算の仕方を考え、より多く計算練習を行います。このように、いつも同じパターンで授業するのではなく、ねらいによって取り組む内容は全く変わってきます。

### ○板書計画を立てましょう

授業の際には、板書計画を作成することをおすすめします。板書計画を作成することで、授業の流れが見えてきます。その中で、「子どもはここがつまずきそうだな。」「ここに時間が掛かりそうだな。」ということに気づき、「そのためにはこんな発問をしてみよう。」という手立てを考えることにつながります。板書の仕方については、「授業のキホン」（冊子の最終ページ）を参考にしましょう。また、各コース担当の先生方で事前に板書計画を交流しましょう。

### ○板書を振り返りましょう

授業を終えた後の板書を振り返ると、「自分がどのような授業をしたのか」「児童がどのように考えたのか」がわかります。授業後には、自らの板書をカメラで記録し・保存をし、今後の板書や授業づくりに役立てましょう。なお、保存したものは、「南小のタカラ」のフォルダーにまとめておきましょう。



## ⑥児童の積極的な発言がある中で、終始落ち着いた雰囲気です。授業が進められているか。

習熟度別少人数指導では、一斉指導に比べ、児童は活発になります。活発なのはいいことですが、授業のルールや先生に対する言葉遣いなどがおろそかになりやすくなります。授業の技術は一朝一夕に身につくものではありませんが、落ち着いた雰囲気の中で授業を進めることが大切です。ここでは、いくつかのアプローチを紹介します。

### ○1対1のやり取りにならないようにしましょう

授業中にA君から質問があったとします。こんなときはどうしたらよいでしょう。A君にすぐに答えをあげたいところですが、ここは少し待ち、集団共通の問題としましょう。例えば「A君から今こんな質問があったけどみんなはどう思う？」と投げ掛けることで、みんなが自分事として捉えることができます。1対1のやり取りでは、児童がお客さん状態になってしまいます。

### ○毅然とした対応を取りましょう

習熟度別少人数指導では、若い先生だと児童もつい気が緩んでしまう傾向にあります。先生と児童のフレンドリーな関係をつくることはよいことなのですが、礼を欠いた発言を見過ごしてはいけません。常に、児童にとって「師」となる指導を心掛けてください。保護者はそのような対応を先生に求めています。

### 言葉遣いを指導する必要がある例

児童が先生に対して、友達に話すような言葉遣いをしてきた時は、児童が先生の対応を試しているのです。このような児童の言葉遣いを受け流すのではなく、正しい言葉遣いで接するように心掛けましょう。

C「先生、この問題やっていい？」

T「やっていいではなくて、やっていいですか、ですよ。」

C「いいじゃん、べつに。」

T「私は、あなたの友達ではありませんよ。では、問題を始めてください。」

このように、さらっと言う程度でよいのです。なお、特別支援の観点からも目くじらを立てて「はい、やり直し!」というような指導は反感を招くだけです。

他にも、姿勢や筆記用具の置き場所、ノートの書き方などが緩んでしまえば、その時間の問題だけではなく、学級の規範意識を低下させることにつながってしまいます。子どもの細かい言動にもしっかりと目を配り、必要に応じて、毅然とした対応を取ることが大切です。

## ⑦授業について校長、教頭、主幹、教務主任、指導方法工夫改善などの先生方や各指導事業で来校している先生方に自分から声をかけ、協力して構想しているか。

### ○迷ったらすぐに質問しましょう

授業を進める上でわからないことや心配なことがあったら、すぐに他の先生方と相談しましょう。たくさんの授業に関わるヒントをもらうことができます。

### レベルが上がる上手な質問の仕方

▲「この時間の発問はどうしたらいいですか。」  
(「どうしたらいいですか」という質問は授業だけでなく全ての面において自分の考えをもっていない証ですので使わない方がよいですね。)

自分の考えを入れることが大事ですね。

◎「この時間の発問は『〇〇』だと思うのですが、それでいいですか？」

◎「この時間の発問は『〇〇』と『△△』で悩んでいるんですけど、どちらがいいですか？」

### ○自分の授業をできるだけ多くの人に観てもらいましょう

授業が上手になるための一番の近道は「授業を参観してもらい、助言をいただくこと」です。チェックリストの①～⑥の項目をクリアしたと以为しても、それは、あくまで自分が思っていることに過ぎないからです。下の図のような授業づくりのPDCAサイクルを繰り返すことで、実践的な指導力が向上していくことでしょ。校長、教頭、主幹、教務主任、指導工夫改善教員の先生方に積極的に声を掛け、授業を観てもらいましょう。

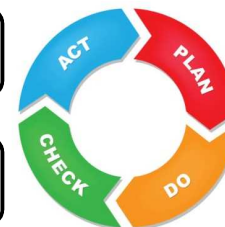
### 授業のレベルが上がる授業づくりのサイクル

助言をいただき、改善の視点をもつ

授業の計画を立てる

自分で授業を振り返る

授業を行う



⑧全体の様子を俯瞰（ふかん）しつつ、個人の達成状況の把握に努めるなど、臨機応変に対応できる授業づくりをしているか。

### ○授業に必要な「3つの目」をもちましよう。

授業づくりは「3つの目」が大切です。個に応じた指導はもちろんですが、全体を把握することも大切です。そこで、児童の指導に必要な3つの目を確認しておきましょう。

#### 1 鳥の目

「高い位置から全体を把握する」ということです。

鳥は、高い位置からも物を見ます。全体の様子を把握することで、児童の理解の達成状況を俯瞰的に見ることができます。習熟度別少人数指導といえども、授業の進行は基本的に一斉指導のときと変わりません。「鳥の目」を意識して児童全体を見ながら授業を進めましょう。



#### 2 虫の目

「低い位置でこの状況を把握する」ということです。

虫は、低い位置からも物を見ます。低い位置で物を見るからこそ、一人一人がどんなことでつまづいているかを把握することができます。習熟度別少人数指導では、この視点を大切にすることで児童が「わかった」「できるようになった」と感じ、習熟度別少人数学習のメリットを感じられるようになります。このように、「虫の目」を意識して情報収集をしましょう。



#### 3 魚の目

「授業の流れを把握する」ということです。

魚は、川や潮の流れ、満ち引きなどを体全体で感じ取っています。鳥の目で全体を、虫の目で個を見ても授業の流れを読み取ることができなければ、うまくいく授業もうまくいきません。

例えば、個に応じた指導を心掛け、一人一人に熱心に説明したとしても、その時間のまとめにたどり着かなかつたり、他の子が時間をもて余したりしては、良い授業とは言えません。授業中の子どもたちのぶやきにも敏感に気付くことができるようにしましょう。

このように「魚の目」を意識して常に様々な状況を想定しながら授業を進めましょう。



⑨児童の学習の状況に応じて、一単位時間の授業や単元の指導計画を改善（カリキュラム・マネジメント）しているか。

### ○教育課程を意識して授業を進めましよう

「教育課程は常に改善されるもの」という意識で授業を進めてください。授業を進めていく上で、「今日の授業のねらいを達成させるためには、1時間では足りない。」と感じたことはありませんか。また、それとは逆に、「今日の授業なら次の時間とまとめてできるかもしれない。」ということもあったかと思えます。

単元の配置についてもそうです。「この単元は、もう少し先にやっておいた方がよい。」ということもあるかもしれません。そこで、次の学年のために、授業後や単元終了後に単元の学習内容について振り返りましょう。

### ○教育課程に書き込む

教育課程にどんどん書き込んでください。書き込むときは、わかりやすく赤や青などの違う色でわかりやすく記入してください。次の学年の先生が気付かなければ、書き込む意味がありません。

カリキュラム・マネジメントの視点はもちろんのこと、理解の状況や教材の有無なども記録しておくことで、次の学年の先生が授業するときに役立ちます。

### ○教育課程に付箋を貼る

書き込むことに不安があれば、付箋を貼っておくことも有効です。特に重要な場面では、少し、枠からはみ出しておくと、注目しやすくなります。

### ○相談することを忘れずに

習熟度別少人数指導では、他の先生も授業をしています。自分の考えだけで改善するのではなく、一緒に授業をしている先生と相談しながら書き込むことで、より確かな情報となります。

⑩全ての児童が「わかった」「できるようになった」「次の時間が楽しみだ」という思いをもって授業を終えているか。

## ○日々の授業にちょっとした『プラス』を加えましょう

これまで、説明してきた①～⑨の内容を実践することができれば、児童に「わかった」「できるようになった」「次の時間が楽しみだ」と感じてもらえるようになることでしょ。ここでは、さらに『プラス1』になるような、ちょっとした工夫を紹介します。

### 1 板書の『プラス1』

児童の考えには、是非、名前をつけてあげましょう。「このやり方は〇〇さんの方式だね。」と言って、板書をしてあげるとその子も周りも覚えやすくなります。また、その子の自己肯定感を伸ばすことにもつながるでしょう。

児童のちょっとした発言を吹き出しにして付け加えてあげることも有効です。自分の意見が認められたと感じることができるでしょう。

### 2 目線の『プラス1』

一人の子が発表しているとき、教師はどこを見ていけばいいのでしょうか。もちろん発表をしている子を見てあげることも大切ですが、中には、集中力の持続に課題がある児童もいると思います。他の子の発表中にも、多くの児童に目を配るようにしてみましょう。友達の意見を聞くことにもつながりますし、先生は、みんなのことを見てくれていると感じてもらえるでしょう。

### 3 発表の『プラス1』

自分の考えを発表するだけでなく、隣の人や他の子の考えを発表させるのも面白いです。自分たちの考えを交流する際に、「隣の人の考えを発表してもらいます。」と問い掛けると相手の話真剣に耳を傾けるようになります。

それぞれの考えを発表させたときは、「〇〇さんの発表についてどう思う?」「同じ考えの人はどれくらいいるかな?」と発問し、発表を全体のものにします。そのようなやり取りを行うことで授業につながりが生まれます。

授業は、「みんなで作り上げるもの」です。主役である児童が生き生きと取り組めるように日々心掛けていきましょう。そして、指導の工夫・改善を繰り返しながら、資質・能力を着実に育成できるようにしましょう。